

三大感染症 制圧へ 論議

岡山で国際保健セミナー



三大感染症制圧へ世界的規模で取り組み、学ぶことを論議する国際保健セミナーのパネリストら

エイズ、結核、マラリアの克服

国境超えた協力訴え

AMDAなど主催

地球規模と地域レベルの感染症対策をともに発表し合い、エイズ、結核などの感染症への理解を深める「国際保健セミナー in Okayama」(AMDAなど主催)が26日、岡山市内のホテルであった。発展途上国の感染症対策を支える資金を提供しようと設立された「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」などが主催し、東京であった「グローバルセミナー」を受け、仙台、京都など全国6都市で開催されている。

【石戸諭、坂根真理】

4カ国70人参加

◆「人間の安全保障」

視座にセミナーには4カ国約70人が参加。エイズ、結核、マラリアが世界、特に途上国で生命と暮らしを脅かす三大感染症であることから「人間の安全保障」の視点から克服策を話し合った。司会役の山本正・日本国際交流センター理事長は「人間の安全保障は、恐怖・欠乏からの自由と尊厳をもって生きる自由のことだ」と述べ、

国境を超えた協力の必要性を訴えた。

◆「岡山発」の感染
ルワンダ保健省のキヤロライン・カヨンガ事務次官は、感染者増加に歯止めをかけている同国政府の取り組みを報告。クリストフ・ベン世界エイズ・結核・マラリア対策基金渉外ディレクターは「(三大感染症で)世界で600万人が命を奪われている。単なる健康の問題ではない」と各国が手を組むことの大切さを強調した。

対策 第2部では、岡山発」の感染症対策が話し合われた。岡山市に本部を持つAMDA社会開発機構の鈴木俊介理事長は、ホンジュラスとザンビアでの取り組みを発表した。「ホンジュラスは、中米のHIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染者の約6割を占め、大半が大都市の若年層」であると説明。その上で「HIV対策を思春期対策として位置づけ、地域

の大学生を中心にAMDAが「若年層にどう知識を伝えるか」を教えている。彼らが地域の学校で教えることがHIVを防ぐことにつながる」と話した。また、高齢者を中心に感染が報告される結核について、多田敦彦・国立病院機構南山医療センター統括診療部長は「軽症でしっかり治すために早期受診を」と呼びかけた。